

平成30年度第2回総合教育会議 会議録

1 会議の名称 平成30年度第2回総合教育会議

2 会議の日時 平成30年10月 2日(火) 午後3時00分～午後4時32分

3 会議の場所 中之条町役場 応接室

4 会議に出席した構成員

町長	伊能 正夫
教育長	宮崎 一
委員(教育長職務代理者)	登坂 初夫
委員	清水 博巳
委員	小菅 加代子
委員	高橋 久夫

5 会議に出席した職員

こども未来課長	宮崎 靖
生涯学習課長	富沢 洋
教育指導係長	矢嶋 将之
総務係長	飯塚 和子

6 会議を傍聴したもの

なし

7 報告事項

- (1) 各校園所の状況について
- (2) カウンセラーの特別配置について

8 議 事

- (1) ふるさと体験事業について
- (2) 六合中学校検討委員会について
- (3) 適応指導教室「虹」の状況について
- (4) その他

9 その他

- ・教育委員会視察研修について(30.10.16～10.17 大網白里市、香取市)
- ・郡民体育祭の結果について

10 会議における議事の経過及び発言要旨

○ 開会（こども未来課長）

○ 町長挨拶

平素より、町行政の運営についてご協力いただき、心より感謝申し上げます。お陰様で、町教育行政も順調に推移しているが、大きく転換を迎える時でもある。総合学習の外部委託や、教職員の働き方改革の関連で、変わるであろう。

また、夏の酷暑対策として、学校のエアコン設置の国庫事業がある。急遽、幼稚園にエアコンの設置を行った。既に、来年度に向けて、六合小中学校のエアコン設置の国庫補助事業を申請した。

学校給食費については、郡内の情勢を鑑み、無料化実施を考えている。吾妻郡内では、高山村と中之条町が、無料化を行っていないが、高山村は学校給食費の20%を補助しているという。保護者等に、無料化や定額補助（半額や1/3補助）について、意見を拝聴した。今後は、子育て支援として判断して、学校給食費の無料化を実施したい。

○ 教育長挨拶

昨日の定例教育委員会に引き続き、教育委員の皆様にご参集いただき、感謝申し上げます。

本日の会議次第では、「議事」と記載されているが、町長と教育委員が、町の教育に携わる事項について協議を行うものである。そのため、協議事項としてとらえていただきたい。

○ 報告事項

(1) 各校園所の状況について

（教育指導係長から状況報告）

- ・平成30年度は、中之条小学校に学校事務職員の補助を加配し、1名増員している。それに加えて、教諭の事務軽減のために、スクール・サポート・スタッフを1名配置している。
- ・中之条幼稚園は、7月からフリー教諭が勤務している。六合こども園は、8月から教諭1名を増員した。
- ・管内小中学校に合わせて14名の外国籍の児童生徒が在籍し、増加傾向にある。
- ・いじめ件数は、昨年と比較して、およそ3倍の件数になっている。いじめの定義に基づき、認知の範囲が学校に周知がなされたため、軽微なものも認知されるようになったためと考える。
- ・LED、エアコンや網戸の設置を行った。
- ・中之条小学校においては、校長室のエアコン、東校庭南側フェンスの設置が進行中である。中之条中学校の空調設備は、電源接続工事を残すのみ、LEDについては特別教室を残すのみとなっている。六合小学校と六合中学校の校内放送設備と、六合こども園の玄関入り口のインターロッキング修繕が進行中である。

(2) カウンセラーの特別配置について

（教育指導係長から状況報告、教育長より補足）

- ・平成30年8月10日の県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故に伴い、遺された児童生徒の心のケアのため、毎週木曜日に緊急対応スクールカウンセラーが派遣される。
- ・既に、面談を行った子供もおり、引き続き見守りが必要である。今年度は、当該カウンセラーが派遣されるが、今後の継続については未定である。
- ・当該カウンセラーの派遣については、県危機管理室長、吾妻教育事務所、県教育委員会義務教育

課係長等が関わっている。児童生徒の心のケアのためには、同じカウンセラーで継続的な対応を要求している。

○ 協議事項（議事進行 町長）

（1）ふるさと体験事業

（こども未来課長から説明）

- ・ヘリコプター搭乗体験事中止に伴い、教育委員会で検討した新事業案を提示する。
- ・中之条町出身の芸能人である「タイムマシーン3号」や、なかのじょうのうたを歌っている「Ryu Miho」さんを招く等の案もあったが、地元食材を使ったコース料理によるテーブルマナー講座を推す意見が多かった。
- ・テーブルマナー講座を、町内で実施できれば一番良いのだが、町内の温泉旅館には洋食のキッチンがおらず、洋食器もそろえられない。
- ・そのため、町外のホテル等の利用か、もしくは、ケータリングを利用して、ツインプラザで実施する方法になる。また、食物アレルギーの対応も考えなければいけない。

【質疑・意見等】

（町長）

- ・生徒の思い出に残るような事業を、既に検討いただいている。日程的に厳しいので、本日の会議で、事業内容を決定したい。

（委員）

- ・事業継続を考えると、テーブルマナーの方がふさわしい。
- ・テーブルマナーは緊張感を感じることができるので、良い経験になる。
- ・同感である。ケータリングではなくホテルを利用したい。軽井沢や草津は、道路凍結等の恐れがあるので、前橋市のロイヤルホテルが良いのではないかな。
- ・距離やアレルギー対応を考えると、軽井沢プリンスホテルや前橋市のロイヤルホテルが妥当であろう。
- ・テーブルマナー講座に賛成する。ツインプラザには、全員収容できるのか。授業日数の確保ができるなら、前橋市のロイヤルホテルや軽井沢プリンスホテルが良い。

（町長）

- ・テーブルマナーに賛成する意見が多いので、テーブルマナー講座の実施に決定する。
- ・実施場所については、前橋市のロイヤルホテルの意見が多いため、当ホテルでの実施を進めることでよろしいか。

（異議なく承認）

（2）六合中学校検討委員会について

（こども未来課長から説明）

- ・8月3日に、第1回の六合中学校検討委員会に実施した。内容は、会議録のとおりである。
- ・第2回は9月28日に実施した。第3回は10月末に実施する予定である。
- ・非常に難しい問題で、どの選択肢も難しく感じており、ベストな選択が見いだせないという意見があった。
- ・統廃合等は、子供に意見を聞くのではなく、大人の責任で判断すべきだという意見があった。

- ・最善な学びの環境を作ることが必要である。小さい学校から大きい学校に移り、環境が変化した時は、ストレスを感じるのは当然である。それを軽減するための支援体制を整えるように、学識経験者から意見があった。
- ・中学校長からは、小学校時に交流すること、環境の変化に対して支援すること、また、子供には大人が思うより適応力を発揮できる能力があるとの意見があった。

【質疑・意見等】

(町長)

- ・継続して検討している難しい問題である。

(委員)

- ・検討委員会において、結論を早く出すようにという意見があったが、結論を出すのは、非常に難しい。最終的な結論は大人が決定する。子供たちのために考えないといけない。
- ・平成24年頃から検討しているのだから、早く結論を出してほしいという意見がある。六合中学校を残した場合、どのような教育環境を提示できるのか。右往左往しないように、年度内に決定できればと思う。
- ・活発に意見が出されて、良い状況になっているが、いつまでも先送りは出来ない。学校を存続した場合、六合中学校は小規模校になり、職員は少なくなる。県内に、中学校の複式学級はない。学力面、部活に問題がないだろうか。非常に難しい問題である。
- ・沢田、伊参、名久田の小学校が合併したときに、保護者に不安があったのを覚えている。小規模校の子供は、リーダーシップがあると感じたし、親が思っている以上に、生きる力を持っていると思う。なるべく早い時期に、方向性の決定を望む。

(町長)

- ・検討委員会の意見を伺い、教育委員会が取りまとめ、早めに総合教育会議で結論を出したい。第3回の検討委員会の意見も参考にしてほしい。

(教育長)

- ・今年度中に、検討会議の意見を最大限に尊重し、検討したい。教育委員会会議を経て、総合教育会議で最終的に決定したい。
- ・先送りはできない。子供たちには順応する力が十分あるので、大人がきちんと、学びの環境を整える必要がある。どの選択においても、メリットとデメリットがある。心のケア等、支援体制を整え、子供の学びを最優先する選択をしたい。

(町長)

- ・最終的な結論は、総合教育会議でなされる。

(3) 適応指導教室「虹」の状況について

(教育指導係長から説明)

- ・現時点で、3名が適応指導教室に通室している。
- ・適応指導教室に通室している1名に、通学する傾向が見受けられ、改善の兆しがあるようだ。
- ・適応指導教室において、水生生物を飼育する準備を進める等、生き生きとした活動ができています。
- ・見学体験を行った生徒が1名いる。また、指導員は学校の了解を得たうえで、適応指導教室での指導がふさわしいと思われる児童生徒の保護者に対して、手紙を送付する等して、通室を勧奨

している。

【質疑・意見等】

(委員)

- ・適応指導教室が機能してきた。まだ、適応指導教室にも通室できない児童生徒もいるが、良い傾向になっている。
- ・指導員が1名で多忙であろうが、学校の教職員と連携して、指導を行っている様子で、登校につながる体制が整いつつある。
- ・指導員が、児童生徒に寄り添ってくれたおかげで、少しずつ適応指導教室に通室する児童生徒が増えてきている。規則正しい生活が、学校への登校につながる。今後は、女性の指導員も検討したらどうか。
- ・今まで、家から出られなかった児童生徒が、保護者や指導員に見守られながら、一步を踏み出す受け皿となっている。適応指導教室「虹」は、家庭と学校の良い架け橋になっている。

(町長)

- ・適応指導教室に通室している1名に、通学する傾向が見受けられ、改善の兆しがあるのだから、効果があった。短期間の間に成果が出たことを評価する。

(教育長)

- ・指導員が小まめに、連携を取った成果である。保護者は、情報を得ているようだ。
なお、昨日の吾妻郡教育長会議において、郡内町村の教育長から、中之条町の適応指導教室に受け入れてほしいという話があった。要綱上、本町の適応指導教室は、町外の児童生徒も受け入れ可能ではあるが、立ち上げ1年目であり、現時点では中之条町立学校の児童生徒を優先したいと考えている。

(4) その他

なし

○ その他

●教育委員会視察研修について

(生涯学習課長から報告)

10月16日(火)～10月17日(水)に実施する。視察場所は、千葉県大網白里市及び香取市である。

●郡民体育祭の結果について

(生涯学習課長から報告)

中之条町は、優勝9競技、準優勝6競技、第3位4競技の活躍があった。

1.1 閉会 (こども未来課長)